
2

車を運転するときに

メーターのはたらき

スピードメーター	56
タコメーター	56
オドメーター	57
トリップメーター	57
燃料計	57
水温計	57

表示灯、警告灯

方向指示器表示灯	58
前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯	58
充電警告灯	59
油圧警告灯	59
排気温警告灯	59
ブレーキ警告灯	60
シートベルト警告灯	60
PGM-FI警告灯	61
SRSエアバッグシステム警告灯	61
警告灯の電球切れの点検	61

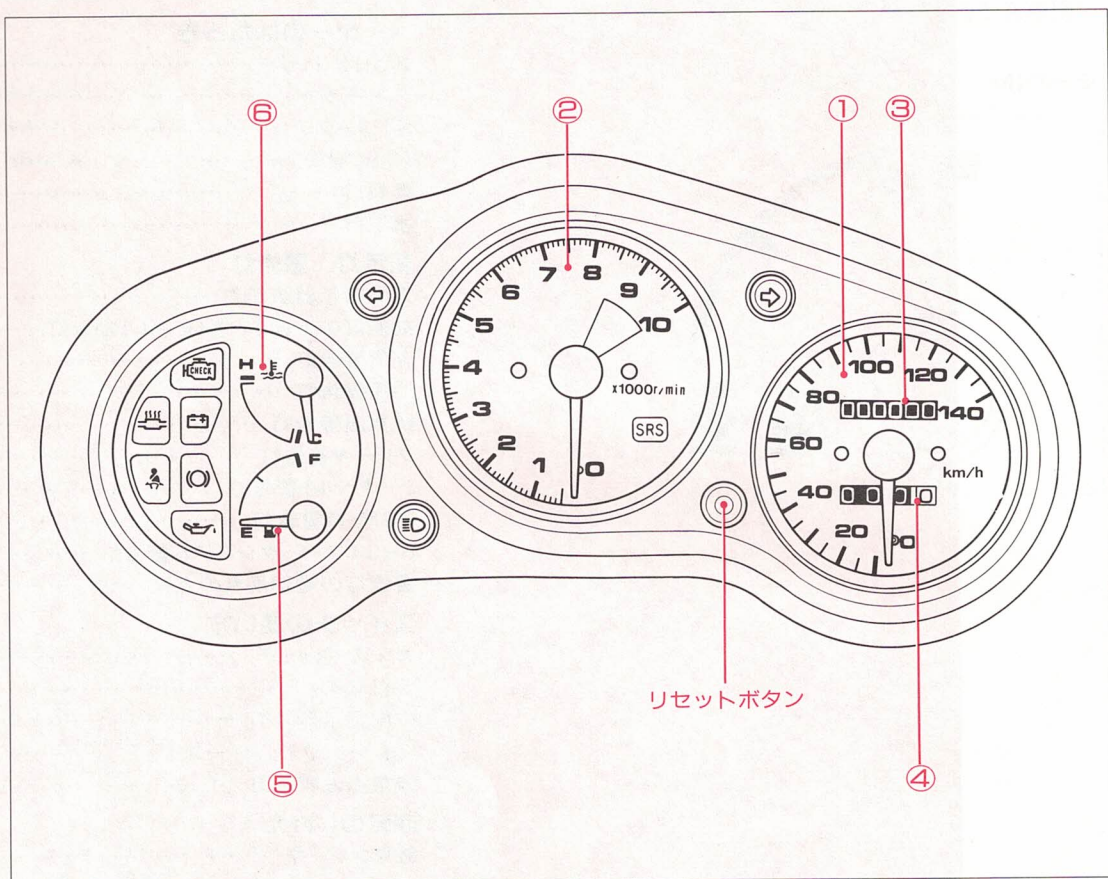
スイッチの使い方

エンジンスイッチ	62
ライトスイッチ	63
方向指示器スイッチ	64
ワイパー/ウォッシャースイッチ	64
非常点滅表示灯スイッチ	65

運転のしかた

駐車ブレーキ	66
エンジンのかけかた	66
チェンジレバーの操作	68

メーターのはたらき



①スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

②タコメーター

1分間あたりの、エンジン回転数を示します。



● エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

限界回転数8,500r.p.m.

③オドメーター

走行距離の累計をkmで示します。

④トリップメーター

区間距離を知りたいとき、リセットボタンを押して“0”に戻して使います。

⑤燃料計

エンジンスイッチの位置に関係なく常に燃料の残量を示します。

“E”に近づいたら、早めに補給してください。



- 燃料補給後、エンジンスイッチを“ON”にしてから正しい量を示すまで、しばらく時間がかかります。

燃料補給について →41ページ

⑥水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

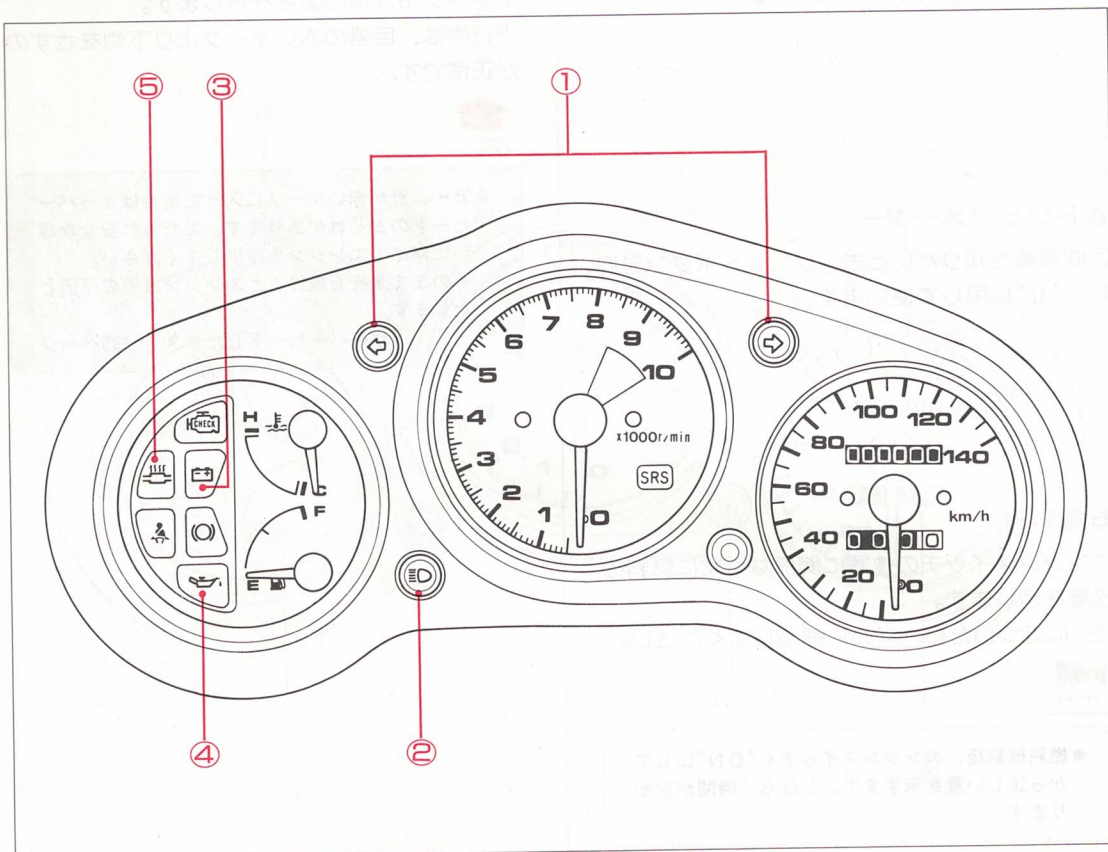
走行中は、目盛の赤いマークより下側をさすのが正常です。



- 万一、針が赤いマークに入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

オーバーヒートしたとき →95ページ

表示灯、警告灯



表示灯、警告灯



①方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。



- 方向指示器の電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅が異常になります。

電球(バルブ)の交換 → 97ページ

電球(バルブ)のワット数 → 131ページ



②前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯

前照灯が上向きのとときに点灯します。



③充電警告灯

充電システムが異常のときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検 →61ページ



- 万一、運転中に点灯した場合は、エアコンスイッチを“OFF”にして、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。

発電機ベルトの点検 →49・109ページ



④油圧警告灯

エンジンの潤滑システムが異常のときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検 →61ページ



- 万一、運転中に点灯したときは、安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときは、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

エンジンオイル量の点検 →49・108ページ



⑤排気温警告灯

触媒装置の温度が異常に高いときに点灯します。



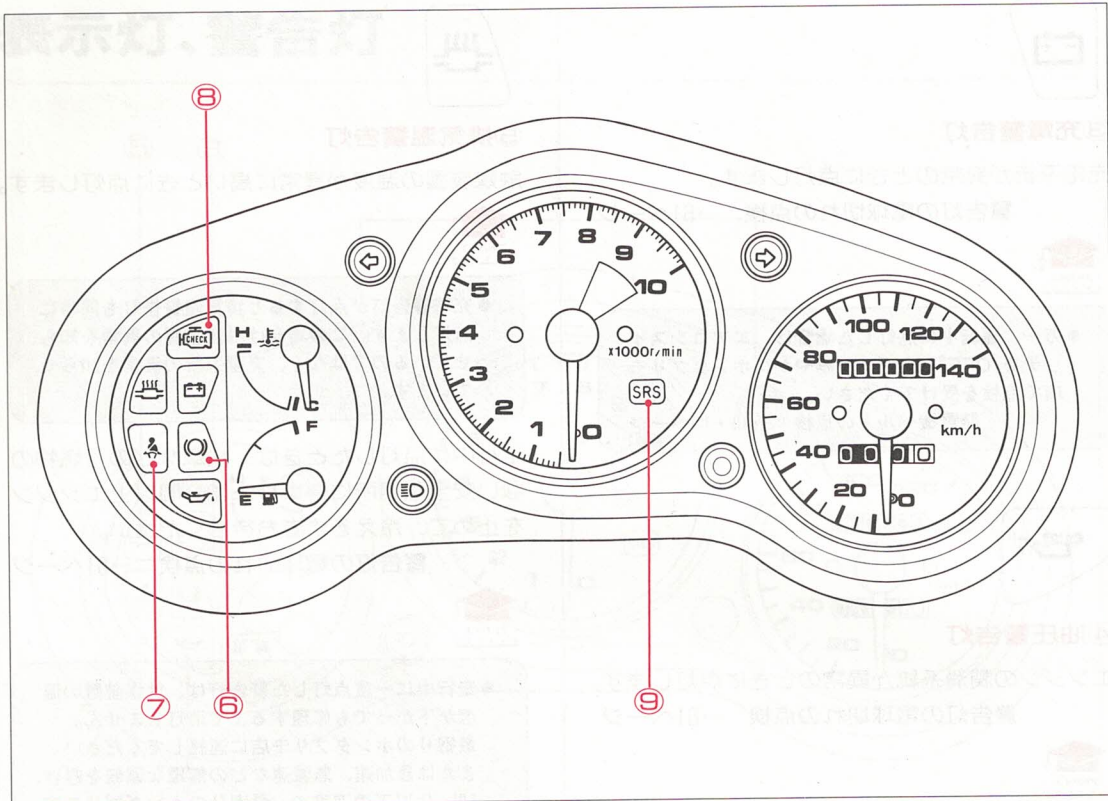
- 充電警告灯が点灯すると排気温警告灯も同時に点灯します。この場合は触媒装置の異常を知らせているのではなく、充電システムの異常を知らせています。

走行中に点灯したときは、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

警告灯の電球切れの点検 →61ページ



- 走行中に一度点灯した警告灯は、触媒装置の温度が下がっても修理するまで消灯しません。最寄りのホンダプリモ店で連絡してください。または急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのホンダプリモ店まで走行し点検を受けてください。
- 警告灯が点灯したまま運転を続けると触媒装置を焼損することがあります。



表示灯、警告灯



⑧ブレーキ警告灯

駐車ブレーキがかかっているときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検 →61ページ



- 万一、駐車ブレーキをかけても点灯しないとき、解除しても消灯しないとき、走行中点灯したときは、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

ブレーキ液量の点検 →48・104ページ



⑦シートベルト警告灯

エンジンスイッチを“ON”にすると、運転席シートベルトを着用するまで点灯し続けます。運転席シートベルトを着用しないでエンジンスイッチを“ON”にすると、ブザーが約6秒間鳴ります。



⑧PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。



- 万一、運転中に警告灯が点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。



⑨SRSエアバッグシステム警告灯

エアバッグ装備車

SRSエアバッグシステムが異常のときに点灯します。

SRSエアバッグシステム →70ページ



- 警告灯が点灯したときには、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。点灯している間は、必要なときにエアバッグが膨らみません。なお、警告灯が点灯しても、エアバッグが誤って膨らむことはありません。

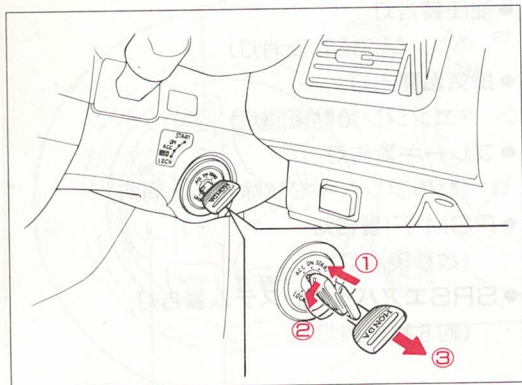
警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを“ON”位置にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。

- 充電警告灯
(エンジン始動後消灯)
- 油圧警告灯
(エンジン始動後消灯)
- 排気温警告灯
(エンジン始動後消灯)
- ブレーキ警告灯
(駐車ブレーキを解除すると消灯)
- PGM-FI警告灯
(数秒後消灯)
- SRSエアバッグシステム警告灯
(約6秒後消灯)

スイッチの使い方

エンジンスイッチ



“LOCK”

キーを抜く位置です。

“ACC”でキーを押し込んで“LOCK”まで回してキーを抜けば、ハンドルは固定されます。



- “LOCK”から“ACC”にキーが回らないときは、ハンドルを左右に軽く動かしながらキーを回してください。

“ACC”

エンジンを止めてラジオなどのアクセサリを使用するときの位置です。

“ON”

運転するときの位置です。



- エンジンを止めた状態で“ON”にし、長時間放置しないでください。
バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。

“START”

エンジン始動位置です。

始動したら、キーから手を離してください。自動的に“ON”に戻ります。

● キー抜き忘れ警告ブザー

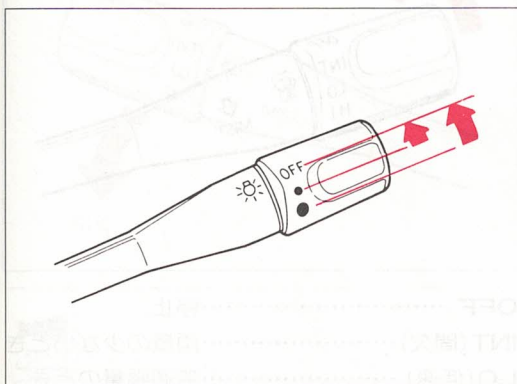
エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のまま車で離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

点灯

エンジンスイッチの位置に関係なく、次のように点灯、消灯します。



ライト名 スイッチ位置	前照灯	車幅灯・尾灯 番号灯・計器類 照明灯
OFF	—	—
●	—	点 灯
●	点灯	点 灯

消灯

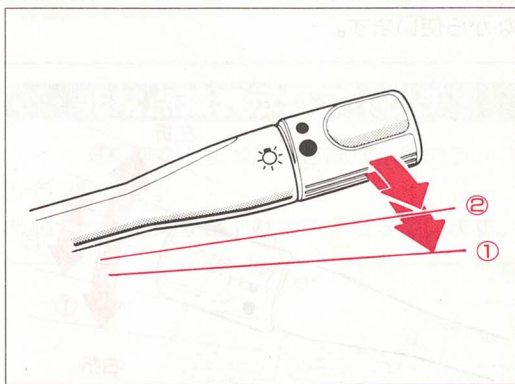
ライトスイッチを“OFF”の位置にすると消灯します。



- エンジンを止めた状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●前照灯の上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを①の位置まで引くと上向き下向きの切り換えができます。遠くまで照らしたいとき上向きにします。表示灯(→58ページ)が点灯して上向きであることを知らせます。



- 対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図

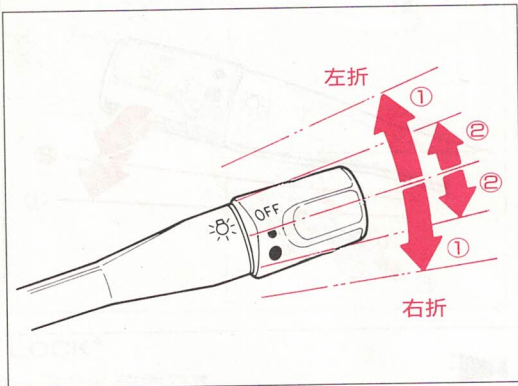
レバーを軽く②の位置まで引いたり離したりすると、前照灯の上向きが点滅します。先行車に合図を送るときなどに使います。



- 前照灯が上向き(ハイビーム)のときは作動しません。

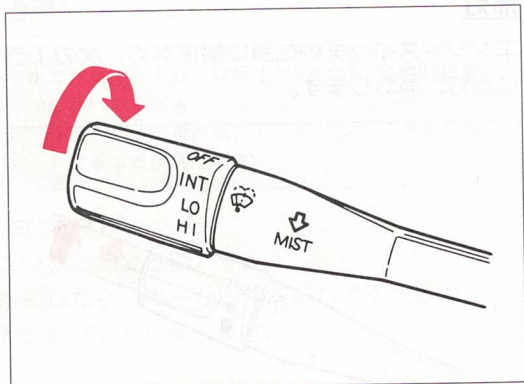
方向指示器スイッチ

ふだんは①の位置で使います。
この位置では、ハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは、手で戻してください。
車線変更などでは、②の位置に軽く手で押さえながら使います。

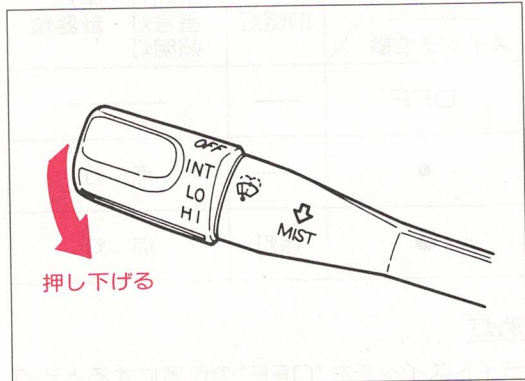


ワイパー/ウォッシャースイッチ

●ワイパースイッチ



- OFF 停止
- INT (間欠) 雨量の少ないとき
- LO (低速) 普通雨量のとき
- HI (高速) 雨量の多いとき

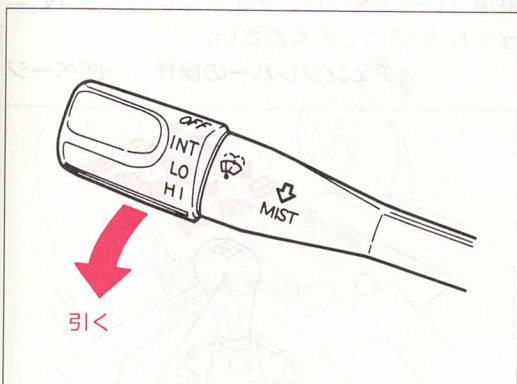


*MIST (ミスト) …レバーを押し下げている間、HI (高速) で作動します。

*MIST (ミスト) とは、英語で “もや、霧” という意味です。

●ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



- ワイパーを止めるときは、エンジンスイッチが“ON”のままワイパースイッチを“OFF”にしてください。ワイパーを正しい位置で止めるためです。



- 空ぶきはガラス面に傷をつけたり、ブレード(ゴム部)を傷めたりします。ウォッシャー液を噴射してからワイパーを動かしてください。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャー液がいままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターで前面ガラスを暖めてください。

→79ページ

凍りついたまま動かすとブレード(ゴム部)を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。



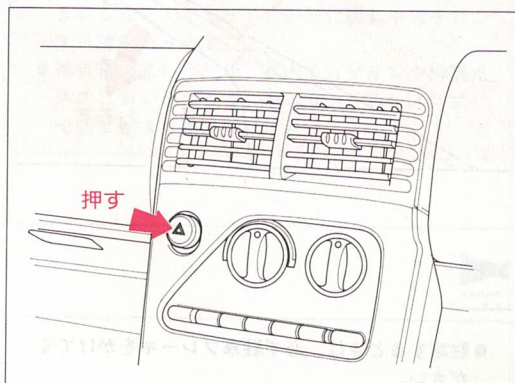
- 寒冷時、ウォッシャー液を噴射するときは先にヒーターを使って前面ガラスを暖めてください。吹きつけられた液が凍結し視界をさまたげるのを防ぐためです。

→79ページ

非常点滅表示灯スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。

故障でやむをえず路上駐車するとき使います。

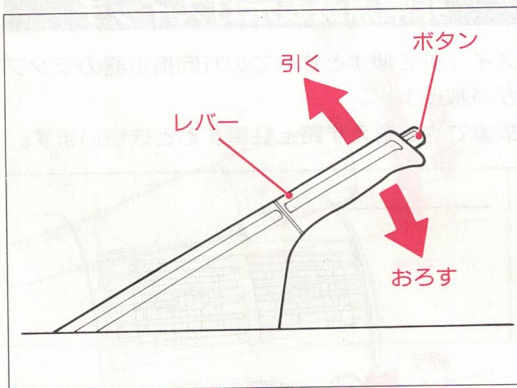


- 非常時にのみお使いください。完全充電の新しいバッテリーでも約2時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

運転のしかた

駐車ブレーキ

ボタンを押さずにレバーをいっぱい引くと、後輪ブレーキがききます。戻るときはレバーを軽く引きあげながら、レバー先端のボタンを押し込み、そのまま下に完全におろします。



● 駐車するときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。

寒冷時の駐車ブレーキの取り扱い

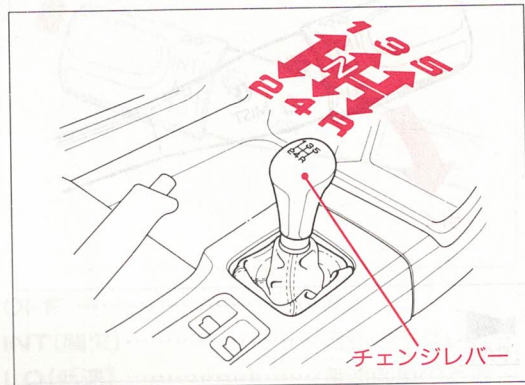
→128ページ

エンジンのかけかた

●エンジンをかける前に

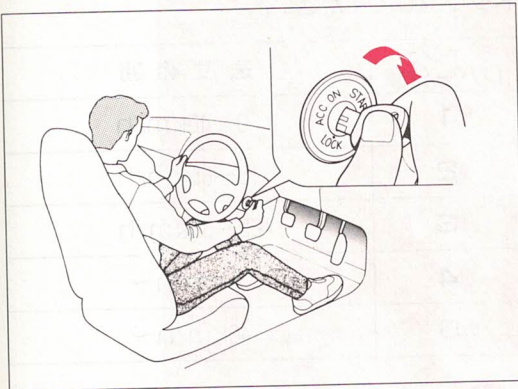
駐車ブレーキをかけ、チェンジレバーを N(ニュートラル)にしてください。

チェンジレバーの操作 →68ページ



●**かけかた**

- ① アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。



- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを“ACC”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。

- ② エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したら、アクセルペダルを徐々に戻してください。

- ③ エンジン始動後は、PGM-FIの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。



- ライトスイッチ、ファンスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。



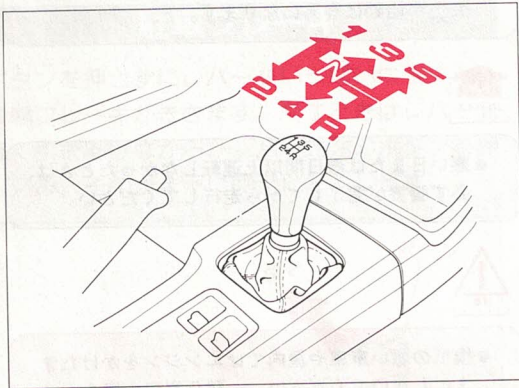
- 寒い日または数日間以上運転しなかったときは、必ず暖機が完了してから走行してください。



- 換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒をおこす危険があります。
- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのおいが消えない場合は、必ずホンダブリモ店で点検を受けてください。

チェンジレバーの操作

●チェンジレバー



変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

Rに入れるとき

誤操作を防ぐため、5 から R へは直接、入れられません。一度 N へ戻してから R に入れてください。



- トランスミッションを傷めないために、R には車が完全に停止してから入れてください。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各チェンジレバー位置での速度範囲を参考に、シフトダウンしてください。

チェンジレバー位置	速度範囲
1	0~40km/h
2	15~65km/h
3	20~80km/h
4	35km/h~
5	40km/h~



- エンジンを過回転させないため、限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。
限界回転数8,500r.p.m.
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上のレッドゾーンで運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。
- 1,000km走行するまでは急発進、急加速を避け、表の上限速度よりも控えめな運転をしてください。



- 法定速度を守って走行してください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンプレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。シフトダウンする際の車速には十分注意してください。